

をはかったが、参加者は今後の開設運営に新たな示唆を得たように思われた。また、講師補佐については、学級指導の理論と技術をあわせ行なった結果、参加者は今後の指導に大いに自信を深め、青年学級振興に役だつものと思われた。

4 青年国内研修旅行

(1) 趣旨 勤労青年に明るい希望を与え、はつらつとした郷土振興への活動を促進するため、県下の青年を東京都八王子市、山梨県一宮町および県内の研究機関へ派遣して、生活、教育、文化、産業等に関する実地研修を行ない、もって郷土振興に資する知識技能の習得を助長し、明るい郷土建設と発展を図る。

(2) 期日

① 県内研修 39・7・18～8・1

② 県外研修 39・8・24～9・22

(3) 派遣先

① 県内研修 男子 県農業試験場 10名、県畜産試験場10名 女子 県立会津農林高等学校 10名、県立磐城農業高等学校 10名

② 県外研修 都市班 東京都八王子市、農村班 山梨県東八代郡一宮町

③ 県外研修の視察調査地 東京都、川崎市

(4) 実施方法 研修を事前、現地、事後研修にわけ班別研究テーマと個人研究テーマについて、調査、交歓、分宿研修等の成果を発表する。また共同生活を通して人間関係を理解させるとともに合理的な生活態度を養う。

(5) 効果 本年度は近代的な農家、商店経営について研修する一方、共同生活を通して人間性の陶冶に意を用いたが、その目的は達成されたと思う。特に県外研修に女子が参加したこと、事後研修の充実は今後郷土振興のためにその活躍が大いに期待される。

5 県青年学級生大会

(1) 趣旨 県下市町村青年学級生代表が一堂に会し、共同生活を通じて研修、学習発表、交歓および当面する諸問題について研究協議を行ない、本県青年学級の振興に資する。

(2) 期日 39・8・6～8

(3) 会場 東白川郡古殿町 古殿町公民館

(4) 参加者 市町村青年学級生1市町村2名(男女各1名)、引率指導者、青年学級主事等 260名

(5) 講師 会津短期大学助教授 佐田玄治

(6) 実施内容

① 講義 「これからの青年の学習」

② 学習テーマ 「学習活動をさかんにするために」

ア 学級生の意識ならびに学習意欲を高めるために、どのようにしているか。

イ 地域の理解、関心を高めるため、どのような学級活動をしているか。

ウ 今後、どんなことをどのようにして学習したいか。

③ 学習体験発表 各出張所管内代表1名計 16名

④ スポーツ交歓競技 ブロック対抗ソフトボールおよびバレーボール。

(7) 効果 会期を2泊3日とし、現地の公民館および民家に合宿しての大会は、日程のうえからも、余裕ができ研究討議も深まるとともに、自由交歓もでき、予期以上の成果をうることができた。また、スポーツ交歓を加えたことにより、郡、方部のまとまりを強め、今後の学習活動に意欲を燃えたさせた。

6 少年生活指導研究集会

(1) 趣旨 社会教育における少年教育の重要性にかんがみ、学校教育計画外にある家庭および社会における少年の生活指導の方法とその展開に関する諸問題について研究し、少年生活指導の充実と促進を図る。

(2) 期日 39・11・16～18

(3) 会場 福島市飯坂町湯野 福島県婦人会館

(4) 講師 福大教授 田口孝之

(5) 参加者 市町村教育委員会少年教育担当者、児童文化センター等社会教育施設関係職員、青少年指導にあたる市町村社会教育委員、子ども会、BS、GS等少年団体育成推進員等少年生活指導の問題に研究的にとりくんでいる者等 80名

(6) 内容

① 講義 「少年生活指導の考え方」「家庭における少年の生活指導」

② 分科会討議

ア 社会教育行政上における少年の生活指導

イ 農村における少年の生活指導の方法

ウ 市街地(団地、住宅地等を含む)における少年の生活指導

③ 事例発表 県中央児童相談所、常磐市教育委員会

(7) 効果 少年の生活指導について社会的関心が高まりつつある時、これが推進力となる参会者が、少年生活指導の考え方について統一的理解をもつことができるとともに、これからの指導に自信と意欲を深めたものと思ひ、活動が期待される。

7 社会通信教育研究集会

(1) 趣旨 社会通信教育受講生を中心として学習方法体験等について話し合い、相互の激励と学習意欲をたかめる機会をつくり、ますます自主的な相互学習を促進し、もって社会通信教育の振興を図る。

(2) 期日 40・1・30～31